我が職場の安全活動について

飯田・座光寺製品事業所　熊　谷　元　秋
前　島　茂　人
熊　谷　金　吾

要　旨

我が職場において，過去に多発した災害を防止するために，安全懇談会等の中で真剣に話し合い，次の事項を柱に諸活動を推進してきた。

最重点実施事項は，自ら考え，自ら実践する全員参加の安全活動ほか２項目である。また，諸活動の推進として，正しい作業の習慣化，ツールボクスミーティグの実施，指差確認の定着化等12実施事項を積極的に取り組んだ結果，56年10月28日の災害を最後に，今日まで２年４か月のゼロ災害を続けなお持続中である。

は　じ　め　に

当事業所は，昭和57年４月１日をもって陣ケ沢作業場と座光寺貯木場が統合し，座光寺製品事業所となり，職員は土木手を含め29名である。事業量の確保と，安全作業の徹底を第一の目標にかかげ，天竜川の東側にあたる大乗坊山国有林，ヒノキ人工林内に，天然アカマツが侵入した複層林事業地で，全員一丸となって目標達成のため努力している。

地形は30度から45度以上と急峻で，尾根と沢が入り組み非常に複雑で，作業環境の厳しい所である。

そのため労働災害の防止には全所員真剣に取組んできたが，56年度までは災害が多く一向に成果があがらない状況であった。何とか災害を減らさなければならないと，安全懇談会等の中で真剣に話し合った結果

1. 自ら考え，自ら実践する全員参加の安全活動の活発化
2. 全所員が明るい職場と和を保つように心掛ける
3. 月間重点目標の設定と100日を目標に無災害の達成

この３つを最重点事項として積極的に取組んだ結果，56年10月28日の災害を最後に，今日まで２年４か月のゼロ災害を続けることができた。

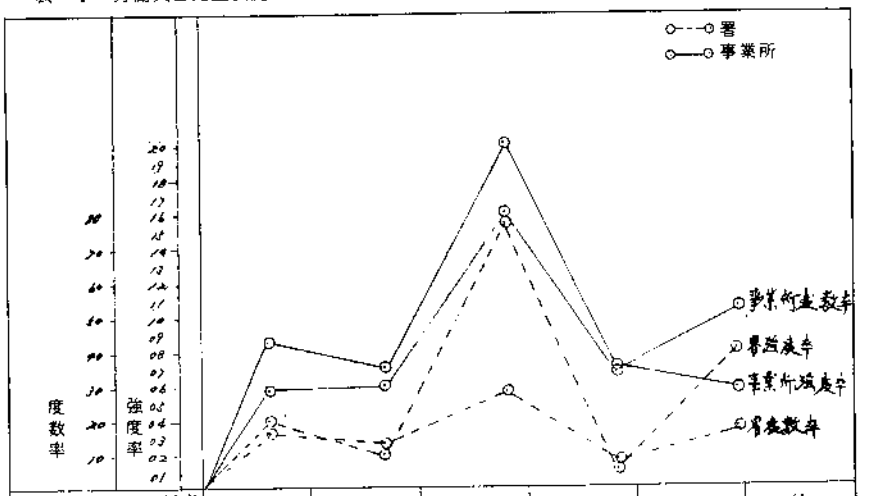
災害はいつ起きるか分らない。また，努力なしでは何ごとも達成されない。我が職場における努力の成果を報告したい。

Ⅰ　**当事業所における過去の労働災害発生状況は**，52年から56年の５年間，災害発生件数14件で，署全体41件の約３割を占めている。年度別には，少ない年で２件，多い年が５件，５年間の平均が2.8件である。

度数率，強度率では，度数率43.58，強度率0.96となっていて，いずれも署全体の数値を上廻っている。この表が示すように，当時は災害が発生したと言えば，また私達の事業所かと言われる程，

災害が多発していた。

表－１　労働災害発生状況



	年度	52	53	54	55	56	計
署	災害件数	9	7	14	2	7	41
	度数率	17.60	14.13	29.23	8.53	15.44	17.03
	強度率	0.38	0.25	1.56	0.16	0.86	0.64
事業所	災害件数	2	2	5	2	3	14
	度数率	28.78	29.16	79.56	32.56	50.91	43.58
	強度率	0.82	0.67	2.23	0.65	0.59	0.96

Ⅱ　**この汚名を何んとか返上し，労働災害との縁をたち切るために，次の諸活動を推進した。**

1　正しい作業の習慣化

(1)　安全懇談会において，作業基準，同要領等を反復習得した。

(2)　主任を中心に朝の全体のミーティングの実施

(3)　各セット毎に安全推進員が主体となり，ミーティングと安全作業カードを利用しての正しい作業の習慣化に努めるよう，毎朝の話し合いを大切にして，その日の作業内容や注意する事を重点に全員が理解し納得したうえで作業に着手する。

(4)　誰でも理解できるように，努めて図解や絵図などを使用する。

(5)　施設事故を防止するため，定められた点検のほか，自主点検を積極的に行い，点検記録を日誌に記帳するほか，先柱・元柱等に点検者と月日を記録する。

2. 指差確認の定着化

指差確認は，どこの現場でも実施されていると思われるが，安全作業を行う上でもっとも効果的な確認実施事項のひとつとして，完全に行っている。

3. 声掛け運動の実施と定着化

朝と昼の作業着手前に一日2回安全推進員の音頭で，「今日も安全第一でゆきましょう！」「今日も無災害で頑張りましょう！」と，全員大きな声で唱え皆んなで誓い合い，決めた事を正確に守るようにしている。また，大きな声で復唱することは，気持を引締める効果がある。

4. あんぜんだよりの発行

昨年5月安全懇談会の席上で，安全意識の高揚をはかるため，安全関係を主に業務又は行事等の記事を新聞にして活用したらと発言があり，以来毎月発行し，現在18号を数えている。

内容も徐々に充実し，安全活動職場の和作りに一役買っている

5. バイオリズム，カレンダーの活用

潜在要因究明カードを活用し，過去の災害やヒヤリ，ハットの記録されたものをバイオリズムで図示することで，要注意日との因果関係があることに気づいた。その結果，要注意日（身体リズム，感性リズム，知性リズム）のいずれかにあたる確率が70パーセント以上もあった。そこで，バイオリズムカレンダーの一覧表を各セット毎に掲示し，朝のミーティングの時にお互に注意し合い，要注意日に当った人は，特に気を付ける等，安全作業に役立てている。（図－1）

6. 誕生日にハガキによる安全意識の高揚をはかる。

各人の誕生日に，主任と推進員が安全教育の一環として，お祝を兼ね安全活動に協力して頂く内容を書き投函し，安全意識の高揚とあわせて，「人の和，家族の和」を保ち，職場の明朗化につながるよう努めている。

7. 看板づくりによる安全意識の高揚

屋外作業の困難な日を利用して，各人が創意工夫をこらし，安全標識等独自の看板を作り，安全意識を高め災害防止に役立たせている。

8. 創意工夫による安全作業の環境づくり。

安全に能率よく如何に作業できるか，職場の仲間で絶えず話が出され，アイデアが生まれている。

(1) 集材線の作業索相互の接触防止

荷上索のブロックを搬器から離す方法。（図－2）

(2) 古タイヤ利用によるブロック類の損傷防止

ア．クリップストッパーのゴムクッションだけでは，ブロックが損傷しやすいので，古タイヤで緩衝装置の役目をさせている。

イ．サドルブロックと搬器の中間にも古タイヤを入れ，搬器が直接サドルブロックに当らないようにしている。

ウ．巻付クリップを，エンドレスラインの搬器取付部分に巻いて覆うことにより，直接荷上索と摩擦しないよう工夫し，荷上索とエンドレスが絡む断線事故防止に役立っている。（図－3）

(3) 主索のスタンプを補強する方法を取入れた。（図－4）

Ⅲ 実施結果と今後の安全活動

最重点実施事項を柱に，各々の実施事項については，決して目新しい事項ではない。どこの職場でも実施されている内容かと思われるが，災害には特効薬が無いとも言える。

あきらめず繰返し，繰返しの取り組みが必要であり，大切なことはいかに全員が積極的且真剣に持場，立場を理解し，役割を発揮するかである。この努力により災害を防ぐことができると我々の職場では自信を得ることができた。

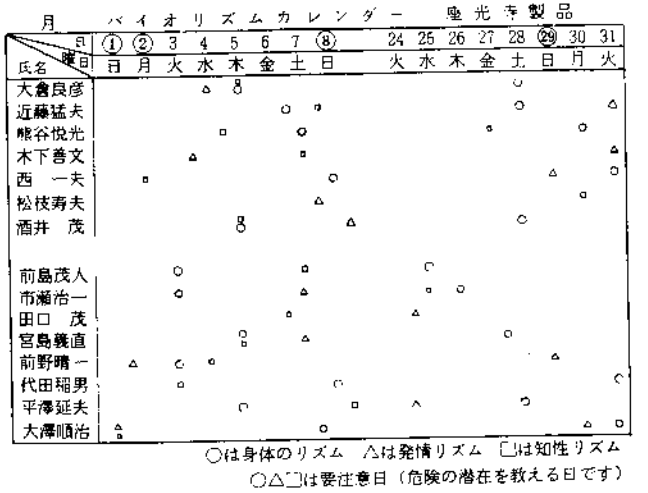
記録はあくまでひとつの課題であるが，56年10月29日から59年1月末日現在で，無災害延日数15,252日，無災害連続延時間125,011時間を達成し，現在も持続中である。

なお署全体においても1年3か月の無災害が続いている。一方で，今までになかった記録が続くことによって，真剣になるあまり，職場が暗くなるのではないかと，心配があったが，それどころか以前と違い災害の無い職場は明るく，事業実行にあっても，昨年9月28日10号台風で集材機や盤台を埋没するなどの大きな被害を受け生産量の確保が危ぶまれたが，全所員一致協力してその復旧に努め，事業量も順調に推移し目標完遂も可能になった。

「健康で災害の無い明るい職場作り」 この願いを身をもって体験している。

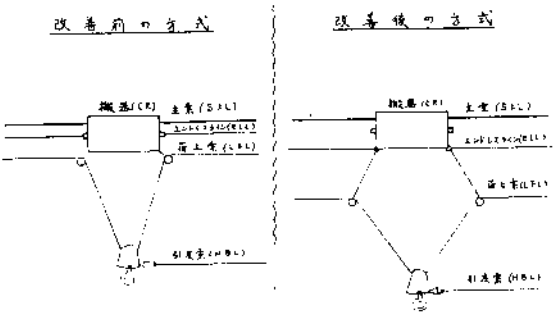
お わ り に

災害を断ち切ることは難しい。今日まで災害は無くとも，明日起きるかもしれない不安が脳裏をかすめる。だが経験を活かし，更に「基本動作の徹底」「安全に対する認識」を高め，「やればできる」との自信をもって，より一層の創意工夫と実践によって，「安全作業で明るい和のある職場」で，「俺が山から絶対に災害を出さない」信念のもとに，家族とともに安全活動を積極的に進めて行きたいと考えている。

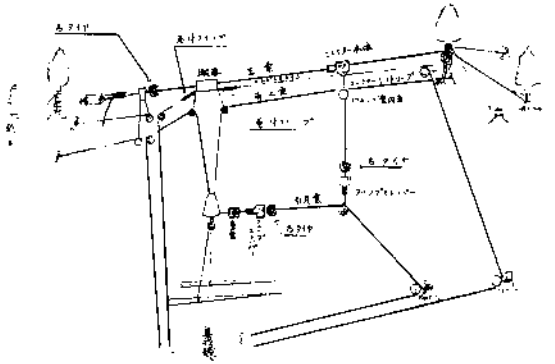


○は身体のリズム △は感情リズム □は知性リズム
○△□は要注意日（危険の潜在を教える日です）

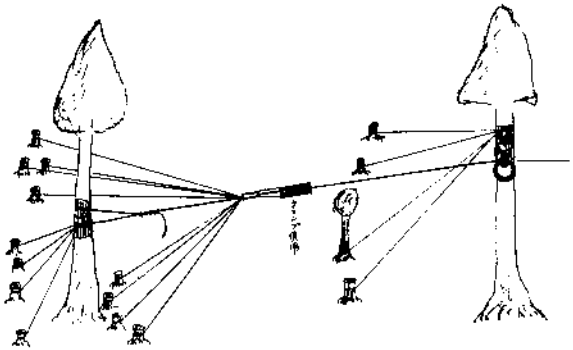
図－1 バイオリズムカレンダー



図－２　作業索接触防止のための集材線の改良



図－３　古タイヤ利用による、ブロック類の損傷と、巻付グリップ利用によるエンドレスラインの摩耗防止



図－４　集材線主索スタンプの補強方法